

★ MAMP/XAMPP 環境構築手順書

■ 構築に必要なもの

- ・コマンドソフト
- ・テキストエディタ
- ・バージョンが8.0系列のPHP
- ・MAMP (Macの場合)
- ・XAMMP (Windowsの場合)

■ 開発用ディレクトリの配置 (共通)

「\Users\ユーザー名」のディレクトリに課題フォルダ「AtlasSNS」を配置する。

■ 環境構築 (MAMP)

1. Composer (Laravelなどを管理しているPHPのソフト的なもの) のインストール

※既にインストールしている場合は飛ばしてください。

- ① 「`curl -sS https://getcomposer.org/installer | php`」をターミナルに入力(ディレクトリはどこでも大丈夫) → Composerをインストールする。
- ② 「`sudo mv composer.phar /usr/local/bin/composer`」をターミナルに入力(ディレクトリはどこでも大丈夫) → どのディレクトリからでもComposerコマンドを使えるようにするため。
- ③ 「`chmod a+x /usr/local/bin/composer`」をターミナルに入力(ディレクトリはどこでも大丈夫) → Composerコマンドに権限を付与している。
- ④ 「`Composer -V`」と入力 → Composerのバージョンが表示されていれば正常に動いている。

2. LaravelフォルダとDBの接続設定

①ターミナルからMySQLにログインしてデータベースを一つ作成する。(DB: atlas_sns)

②テキストエディタで「AtlasSNS_〇〇」のフォルダを開く。

※〇〇は自身のフルネーム半角英字

③Laravelフォルダ内にある「.env」という名前のファイルを下記のように編集する。

(「.env」ファイルがない場合は「.env.example」を複製し、名前を「.env」に変更して使う)

※Finderから探す時、デフォルトでは表示されていない → 「`⌘ + Shift + .`」を入力すると出現する。

→.envファイルの編集項目

APP_KEY=何も記述がない場合は作成

DB_PORT=MAMPのMySQLのポート番号

DB_DATABASE=データベース名

DB_USERNAME=ユーザー名

DB_PASSWORD=パスワード

↓

APP_KEY=ターミナルで、「php artisan key:generate」を入力し作成
DB_PORT=MAMPのコンソール画面から確認
DB_DATABASE=①で作ったデータベース名
DB_USERNAME=root
DB_PASSWORD=root

④MySQLから抜けてターミナルで「\Users\ユーザー名\AtlasSNS」のディレクトリに移動する。

⑤「php artisan config:cache」をターミナルに入力する。

⑥「php artisan cache:clear」をターミナルに入力する。

3. Laravelの起動(MAMPは最初に起動させておく)

①「\Users\ユーザー名\AtlasSNS」のディレクトリで「php artisan serve」をターミナルに入力 → Laravel内でサーバーを起動している。

②画面にhttp://から始まるURL(http://127.0.0.1:8000 等)があるのでそれをコピーして Google ChromeのURLの欄にペーストして開く → SNS課題のloginページを開くのでURLに「/login」を付け足す。ログイン画面が表示されれば完了。

※「php artisan serve」したターミナルのウィンドウは起動後は入力等できない

→起動を停止する場合は「CTRLキー + c」を入力する。

■環境構築(XAMPP)

1. Composer(Laravelなどを管理しているPHPのソフト的なもの)のインストール

※既にインストールしている場合は飛ばしてください。

①Composerのサイトから「Composer-Setup.exe」をインストールする。

→参考サイト: <https://www.tairaengineer-note.com/composer-install/>

2. LaravelフォルダとDBの接続設定

①コマンドソフトからMySQLにログインしてデータベースを一つ作成する。(DB: atlas_sns)

②テキストエディタで「AtlasSNS_〇〇」のフォルダを開く。

※〇〇は自身のフルネーム半角英字

③Laravelフォルダ内にある「.env」という名前のファイルを下記のように編集する。

(「.env」ファイルがない場合は「.env.example」を複製し、名前を「.env」に変更して使う)

※エクスプローラーから探す時、デフォルトでは表示されていない。

→隠しフォルダの表示手順

1.タスクバーの検索ボックスに「フォルダー」と入力し、検索結果から [全てのファイルとフォルダーを表示] を選択する。

2.[詳細設定] で、[隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する] を選択し、[OK]を選択する。

■.envファイルの編集項目

APP_KEY=何も記述がない場合は作成

DB_PORT=XAMPPのMySQLのポート番号

DB_DATABASE=データベース名

DB_USERNAME=ユーザー名

DB_PASSWORD=パスワード

↓

APP_KEY=Shellで、「php artisan key:generate」を入力し作成

DB_PORT=XAMPPのコンソール画面から確認

DB_DATABASE=①で作ったデータベース名

DB_USERNAME=root

DB_PASSWORD=(ここは空欄)

④MySQLから抜けてコマンドソフトで「\Users\ユーザー名\AtlasSNS」のディレクトリに移動する。

⑤「 php artisan config:cache 」をターミナルに入力する。

⑥「 php artisan cache:clear 」をターミナルに入力する。

3. Laravelの起動(XAMPPは最初に起動させておく)

①「\Users\ユーザー名\AtlasSNS」のディレクトリで「 php artisan serve 」をコマンドソフトに入力する。→ Laravel内でサーバーを起動している。

②画面にhttp://から始まるURL (http://127.0.0.1:8000 等)があるのでそれをコピーしてGoogle ChromeのURLの欄にペーストして開く。→ SNS課題のloginページを開くのでURLに「/login」を付け足す。ログイン画面が表示されれば完了。

※「php artisan serve」したターミナルのウィンドウは起動後は入力等できない。

→起動を停止する場合は「 CTRLキー + c 」を入力する。